

風光



出張りんぱ部会

現場の実態、悩み出し合って

臨パ部会は、臨職でもパートでも、よりよく働けるように悩みを出し合い、共

感できる場として集まり、職場でどんなことをしてけるのかなど交流しています。また、多くの非正規労働者が組合に未加入なので、組合を知ってもらう工夫をしながら活動しています。

出張りんぱ部会@めいほく保育園は、正職や臨職・看護師、そして未加入の方で合計14人の参加がありました。

交流では、職場や自分の悩みを出し合うところから始めました。「夜間保育で仕事だと組合の活動や交流会に参加ができないのでどうしたらいい?」「勤務変わってほしい」といってもい



参加者で車座になって交流

いのだろうか?」という話も出ました。臨パ部会の事務局の方が「参加したいと思ってもらうのはうれしいことで、継続して参加してもらおうとわかりやすくいい。」と言っていました。分会や園で相談してもらって考えられるといいかなと話し合いました。

臨職さんで「忌引き休が欲しい」と言ったら「有給が先だ」と言われ、正規の人に理解してもらっても難しいという話も出ました。正規も臨職も肉親を失った悲しみや葬儀などのやることは一緒なのだから、均等待遇をしている職場もあるのだし、思いをわかって欲しい、要求していけるといいねと話しました。

また、ヘルパーで働いていた方からは「ヘルパーの仕事は好きだけど、拘束時間が長くて資格職なのに低賃金で、一人暮らしができない。生活のためにはヘルパーの仕事は厳しい」という話も出ました。そこから専門性に絡んで、定年退職後は再雇用で正規と同じ働き方で賃金は半分程度という話題へ。「65歳定年を要求する?」と聞くと、「でも定年した人の給料で若い



大塚さんから説明をもらって施設見学

人が何人雇えるかと計算してしまっただよね」と。少ない補助金の中で、現場が自己努力でやりくりし、利用者が困っているからやるしかないという頑張りから、大変で終わるだけという声もありました。大塚さんで終わるだけでなく、健康で元気に働き続けられるように、厚労省や国に訴えて現場実態を知ってもらい、制度を改善し補助金を上げてもらうよう声を上げていかなければいけないと話しました。

色々な分会や職・雇用の人が集まり、現場の実態を話すことで新しいことを知ることができたり、「それを要求できるんや!」と思える場になりました。他園の見学もでき、改めて組合の仲間って素敵だなと思えた楽しい臨パ部会でした。

(取材:新瑞福祉会分会 小島不二子)

【風の音】
 10月上旬に我が園で運動会がありました。私は、1・2歳児混合クラスを担当しています。普段の遊びから追いかけて遊びたい遊びが大好きな子どもたちです。何かをきっかけに子どもたちが鬼に変身して追いかけて遊びが始まりました。大きなかぶごっこや保育士が鬼に食べられるマネをするときみんな1列に並び、「うんとこしょ、どっしんしょ」と引っぱり遊びを楽しんでいました。「これら運動会でも取り入れたらいいよね」と担任間で話し合い、様々な遊びをやってみました。その中でも大きなかぶごっこは、誰もが楽しみ、ニコニコでやっていいたので大きなかぶをクラス種目としてやることに決めました。子どもたちの好きな跳び箱ジャンプや助木のすべり台なども取り入れて取り組んでいきました。そして迎えた運動会当日。天気はあいにくの雨。外ではできず、体育館の中で運動会を行うことになりました。朝の受け入れでいつもと違う雰囲気や見知らぬ場所ということもあってか半分くらいの子が泣いてしまっていました。最初の種目はリズムだったので、泣いてしまっても参加できない子もいて、「クラス種目どうなるかな?」と心配になりました。しかし自分たちのクラス種目が近づくとつれて、次第に笑顔も増えて始まる頃には誰一人泣いていませんでした。運動会が始まった時には、大泣きだった子がとびきりの笑顔で取り組む姿がとて一瞬懸命抜く子どもたちの姿はとってても可愛らしく、微笑ましい光景でした。(みいちゃん)

憲法25条に基づく権利保障としての
社会福祉事業を守り拡充することを求める請願署名



1人100筆、声かけ合って頑張ろう!



22日@金山の宣伝行動には18人が参加して!

私たち福祉労働者は、社会福祉事業を担っています。憲法25条で規定されている「健康で文化的な生活を営む」国民の権利を、国が保障する為に具体的に制度化されたものが社会福祉事業であり、非常に公共性が高いものです。ところが、政府は2012年度に成立させた「社会福祉制度改革推進法」で社会保障の基本的な理念を「自己責任」に変え、社会保障の財源に消費税を充てることとしました。

社会福祉法人の弱体化 ねらう大改悪

そして、今政府が狙っているのが、「社会福祉法等の一部を改正する法律案」の成立です。この法案のねらいは、「地域貢

献」の名のもとに、国がすべき社会福祉事業を社会福祉法人に肩代わりさせようとするものです。さらに、社会福祉施設等退職手当共済制度への公費助成の対象から、介護分野に続いて障害分野も外そうというものです。数年後には、保育分野も対象から外すことが検討されています。この法案は、明らかに社会福祉法人を弱体化させ、小さい法人を整理統合させるものです。私たち福祉施設で働く職員にも大きくかわる改正です。

署名学習決起集会で 意思統一

10月21日、福保労も参加する「愛知・権利としての福祉を守る関係団体共同実行委員会」主催の「憲法輝く社会福祉事業の拡充を求める署名学習決起集会」が開催され、全体で87人、うち組合員54人の参加で学びました。障害・介護・保育の現場で制度が改悪され、福祉が蔑ろにされている実態が話され、施設の利用者の人権が侵害されていることが明らかになりました。寺坂委員長は福祉労働者としての視点から、今現在でも各施設によって工夫されながら実施している



挨拶する石井実行委員長と発言者の方々

中で、適正な人員予算が付くこともなく仕事だけが幹旋され義務化されることは、単純に考えて各労働者の負担が増えるであろうことや、退職共済手当制度の見直しで、現状下の中でさえ未来が見えにくい中、これからの社会福祉の担い手をなくすことにもつながる危惧があることを発言しました。そして、会場の参加者で、社会福祉法を改悪させないために署名をがんばろうと意思統一をしました。

大曽根・金山・新瑞・ 栄で署名宣伝行動

私たちはこの学習会を山場にはさみ、10月19日〜23日までの間、大曽根・金山・新瑞・栄などで、全国保育部会のリレー宣伝と合わせて、この署名を集めるための宣伝行動を行いました。

のべ64人の組合員が参加し、道行く人々にチラシを配布したり署名を呼び掛けました。なかなか、街頭で署名を集めるのは難しいのですが、今回はマイクでの発言に反応して、署名を積極的に書いてくれる方が目立ちました。

10月25日の「第17次福祉予算削るな!福祉を金儲けにするな!愛知県民集会」でも、様々な分野の方から、戦争法が成立したことと社会保障が削減されたこととで起きている現場の実態の話がされました。集会の最後に「福祉に関わるものとして、平和を守ること、憲法が息づく社会を実現することなどの社会的使命を強く自覚し、共に行動していきましょう。…だれもが、平和な社会の中で人間らしく生きる権利を謳った憲法9条と25条を、職場から、地域から、日常生活から、活かす社会の実現を目指します。」というアピールを参加者全員で採択しました。このアピールに基づいて、「憲法25条に基づく権利保障としての社会福祉事業を守り拡充することを求める請願署名」を1人100筆を目標に、一人ひとりの組合員が意識的に活動できるように、共に声をかけ合いながら頑張らしましょう。

(副委員長・安藤光枝)

2015年夏 平和について考える

すずかけ共同作業所分会
新城 圭祐

私はこの夏まで、安全保障閣連法(戦争法)は危険だと思いつつも、何をすべきか分からず淡々とニュースを聞く毎日だった。

た。6月のある日、自民党推薦の憲法学者長谷川恭男氏が「戦争法は違憲だと言わざるを得ない。」と発言してから周りの様子が変わってきた。立憲主義、法治主義、平和主義の危機を感じる。その頃、新聞や週刊誌で「SEALDs」の言葉をよく目にする。どうやら若者が立ち上がっているらしい。しかし、若者が政治に危機を感じるなんて信じてなかった。そんな僕はアホだった。ある日、組合から8月30日、国会前大行動に誘われた。本心「ちょっと偶然・・・」しかし、偶然が自分を変えた。8月30日東京、国会議事堂前



平和行動には9条・25条の14青年部Tで

から二駅手前で降りたのに、人、人・・・で、国会議事堂前にはたどりの着けない。スピーカーからは安倍政権の退陣を求めるシュプレヒコール。東海地本の



右端が新城さん@品川駅

仲間とはぐれない様に進むのが精一杯の状態だった。そんな時、後に有名になる、SEALDsのKANSAIの寺田ともかさんの「安倍首相、私たちの声が聞こえていますか」がスピーカーから流れてきた。鼻の奥が熱くなり、目から涙がこぼれそうになった。たぶん、これが心の感動なのだろう。「43才、こんなに胸が痛いほどの感動はいつ以来だろう・・・ましてや、政治の事で泣くのは恥ずかし。」そんな思いだった。

SEALDsの本音の言葉は、43才のおっさんの胸にすんすん響く。滲んだ目に写るのはSEALDsの若者と地本から一緒に東京に行った若者たち。若い人がこんなに真剣に闘っているのなら、自分にも何かできるのでは？何かしたい！と思った瞬間だった。

組合と平和について考えてみた。現場は人手不足等でギリギリの状態で働いている。「いい保育がしたい」「仲間の喜ぶ顔が見たい」しかし、それが行えないもどかしさが蔓延している。日本の平和と同じではないか。じゃ組合では現実の矛盾が解決しなくても、矛盾だけでも話あえる存在であろうよ。もし、それができたら、矛盾から一歩でも進めようよ。私はSEALDsと地本の若者や仲間と日本の未来に希望を持つこと、手をつないでスクラムを組む楽しさを教えられた。だから、この仲間たちと日本の未来に希望を持って話をしたり行動したい。そして、戦争法を廃止したい。仲間と共に諦めない。たいたいそんな集まりを考え中。「この指とまれ！」で呼びかけるから、これを読んでいるあなたにも是非来て欲しい。

「シリーズ・私のおすすめ」

くまのまえ保育園分会

熊澤 あゆみさん



名古屋市緑区のくまのまえ保育園で保育士をしている熊澤あゆみです。

私はディズニーが大好きで、大学生の頃には1年に5回くらいディズニーリゾートに行っていて、思いっきり遊んでいました！最近はなかなか行けていないのですが、新しいグッズやショー、パレードなどのチェックは欠かさないほど大好きです。ディズニーの魅力はたくさんありますが、その中でも私が特に大好きなのは「ディズニーの音楽」です。ちよっとマニアックですが、私はパークで行われているショーやパレードの曲やディズニー映画の音楽を普段か

らよく聴いていて、なかなか行けない時でもディズニーに行った気分を楽しんでいます！そこで私がみなさんにおすすめしたいのは「Disney on Classic」というコンサートです。このコンサートは毎年全国各地で開催されていて、オーケストラとヴォーカリストによるパークミュージックやディズニー映画の曲の演奏や歌を聴くことができるコンサートです。クラシックのコンサートというと、かたい印象を持ってたり行きづらいなと思われ方もいたりすると思いますが、「Disney on Classic」はショーや映画の一部分がスライドで流れたりヴォーカリストによるパフォーマンスもあったりして、耳で聴くのはもちろん、目で見るのも楽しめるコンサートなのです。このコンサートに行ったら帰り道、私は必ず「ディズニーに行きたくなっちゃった」と言っています！そのくらいディズニー気分を楽しめるコンサートです。ディズニーが好きな方も、オーケストラや音楽がお好きな方もぜひ行ってみてください！

そして国会前大行動はフィナーレを迎えたが、SEALDsは残って街宣行動をするという。若者と一緒に行ってみようよと、帰る人々の流れに逆行して国会前へ進んでいった。そんな時、突然SEALDsが目の前に飛び込んできた。「人を殺したくないって思っていますか！」

一緒に行動しよう！

